

国際ボランティア学会

ニュースレター NO.12

2007年11月1日
国際ボランティア学会事務局
〒565-0871 大阪府吹田市山田丘 1-2
大阪大学人間科学研究科ボランティア人間科学講座内
Tel & Fax : 06-6879-8064
E-mail: volsocio@hus.osaka-u.ac.jp

1. 第9回大会のお知らせ
2. 第7回隅谷三喜男賞について
3. 第8回隅谷三喜男賞の公募のお知らせ
4. 『ボランティア学研究』について
5. 学会事務局より

1. 第9回大会「WAAはグローバルから」のお知らせ

大会実行委員長 小川寿美子 (名桜大学人間健康学部准教授、沖縄県 JICA 帰国専門家連絡会会長)

国際ボランティア学会が沖縄で開催されます！本大会のテーマは「WAAはグローバルから」です。WAA（わー）とはウチナーグチ（沖縄言葉）で「雅量」を意味します。詳細は、本大会長の吉田朝啓氏による基調講演「国際ボランティアを考える」に譲りますが、国内外を問わずボランティア活動を通じて我々が獲得するものの究極は「雅量」なのではないか、と大会長は強調されます。また、グローバル（Glocal）は「Think Globally, Act Locally」の略語（造語）です。この有名な標語は1992年の地球サミット前後に地球環境問題を考えるためのキャッチフレーズとしてよく使われるようになりました。酸性雨のように被害が国境を越えてしまう環境問題、温暖化のように地球全体の仕組みのなかでさまざまな問題の原因、影響、対策を考えなければ・・・というのが「Think Globally」。グローバルな視点で考えると言ってもおおげさな理論に耽るのではなく、常に自らの足下のことをどうするか具体的に把握しつつ実際に行動しなければというのが「Act Locally」の意味です。

今回は沖縄での初の学会開催ということもあり、沖縄独特のプログラム構成にしました。WAAの哲学を語る基調講演に引き続き、沖縄伝統芸能であるエイサーの演舞を間近で観賞します。そして公開シンポジウム「沖縄における環境ボランティア活動～生態系のなかでわたしたちにできること～」では、亜熱帯地域にある日本唯一の県である沖縄の貴重な自然環境資源とその保全に懸けるボランティア精神旺盛なシンポジストから、日常の取り組みとその現場・沖縄から世界に発信するメッセージを熱く語っていただきます。

更に大会2日目には、一般の方にも参加していただける「公開ワークショップ」を2つ設けます。一つは「海外ボランティア活動 from 沖縄」で青年海外協力隊やNPOによる国際ボランティアの諸活動を語ってもらいます。もう一つは「開発教育人材育成ワークショップ in 沖縄」で、開発教育に関する人材育成の現場をワークショップ形式で体験してもらいます。その午後には「環境フィールド活動体験 in 沖縄（任意参加）」にて、3グループに分かれて公開シンポジウムで紹介された自然環境の現場を観察します。

“地球規模で考えて、身の回りから実践”を、沖縄での本学会を通じて会員の皆様と共有したいと思います。勿論、自由研究発表、ポスター発表のお申し込みも大歓迎です。多様で多彩な分野、御所属、ご経験、フィールドからのご発表やご参加を心よりお待ちしております。